

## 平成28年度8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成28年8月2日(火) 午前11時00分～11時35分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ12社

### 会見内容

#### 1. はじめに

- 今年度のUIJターン促進事業の1つとして、お盆時期の8月12日(金)に「夏のUIJターン就職個別相談会」を開催いたします。昨年度はお正月休みの帰省者をターゲットに1月3日(日)の年始に開催しており、お盆休みの帰省者をターゲットにした開催は、今回、初めてとなります。
- 当日は、相談者の希望業種等をお聞きした上で、後日、市内企業に情報を提供し、マッチングを図っていくというものであります。今年度は、昨年度同様、年始にも相談会を開催する予定です。
- また、昨年度も開催いたしました、新卒者を対象とした合同企業説明会につきましても、相談会同日の8月12日(金)に開催することとなっており、道央圏を中心とした大学等に周知させていただいております。  
ぜひとも、この機会に、1人でも多くの方が市内企業への就職につながることを望んでおります。
- 続いて、第69回「くしろ港まつり」であります。夏の一大イベントの「くしろ港まつり」が、69回目を迎えます。日程は8月5日(金)から7日(日)までの3日間となっております。
- 8月5日(金)は、大漁ばやしパレード。これは、山車が練り歩くというものであります。6日(土)には、市民踊りパレード。約2,900人が参加する予定であります。7日(日)には音楽パレード。これは、幼稚園、小・中学校、高校、また一般団体の参加となっております。  
その他の主な協賛行事といたしましては、「歩行者天国」。これは、今回は北大通3丁目～5丁目の区間において行われます。そして、定着いたしました「釧路港舟漕ぎ大会」など、色々な行事が行われることとなっております。

#### 2. 話題提供(2項目)

##### 1. 水の週間キャンペーンの実施について

- 8月1日が「水の日」として平成26年に法定化されたことを踏まえ、様々な広報活動で「水の日」の周知に取り組んでいるところであります。
- 平成27年度には、子どもたちが「水の日」をきっかけに水の大切さを考え、水道・下水道への関心を高めることを目的としたリーフレットを初めて作成いたしまして、市内各小学校の4年生全員に配布する取組を行いました。このリーフレットは今年度も作成いたしまして、夏休み前に各小学校に配布したところです。
- さらに新たな取組として、今週末の6日(土)・7日(日)の2日間、先程、ご紹介した「くしろ港まつり」の会場において「水の週間キャンペーン」のブース

を出展いたします。

観光国際交流センターの1階アトリウムを会場として、市民の皆さんに水道・下水道への理解を深めていただくことを目的に開催するものです。公民連携の一環として、釧路市管工事業協同組合の皆さんの共催で、子どもから大人まで楽しんでいただけるような内容といたしました。

- 内容の一部をご紹介しますと、どのようにして、きれいで安全な水を皆さんのもとへお届けしているのか、どのようにして使った後の汚水をきれいにして自然に戻すのか、このような仕組みをわかりやすく学んでいただくコーナーですとか、普段は見ることができない、地中に埋まっている水道管の実物や、地震に強い耐震管の展示を行います。

あわせて、「くしろ阿寒百年水」のボトルウォーターを用いた「きき水」コーナーや、塩ビ管を使ったパターゴルフ、輪投げ、積み木など、家族で遊べるコーナーも用意しております。

- このようなキャンペーンや広報活動を通して、改めて市民の暮らしを支える水道・下水道への関心を高めていただき、ご理解をいただけるよう、取り組みを進めていきます。

## 2. 平成28年度釧路市防災総合訓練の実施について

- 今年の防災総合訓練は、釧路地区は9月1日（木）、阿寒・音別地区は9月2日（金）に実施いたします。
- 釧路地区では、耐震旅客船ターミナルにおいて、大規模地震による津波の発生から2日後の状況を想定し、海上自衛隊の多用途支援艦「すおう」、釧路海上保安部の大型巡視船「そうや」、またヘリコプターを使用して海上訓練と地上訓練を行います。
- さらに、西港区第1埠頭をサテライト会場として、釧路海上保安部、第一管区海上保安本部釧路航空基地、釧路管内沿岸排出油防除協議会、および釧路市石油コンビナート等特別防災区域協議会による、「流出油事故対策訓練」を行います。
- また、4月に発生した平成28年熊本地震の教訓等を踏まえ、災害ボランティアによる炊き出し訓練を今年度新たに実施するほか、物資輸送・仕分け訓練など、課題となった点も踏まえ、あらためて関係機関による連携確認に力を入れた取り組みを行っていくというものです。
- 訓練には44機関の参加をいただき、32項目の訓練を実施する予定で、参加人員は一般参観を含め約1,000人と考えているところであります。

## 3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 本日午後に、釧路駅周辺整備に関する「釧路駅周辺まちづくり検討委員会の有識者検討部会」が開催されるということですが、今後のスケジュールはどのようになっていますか。

(市長)

- ・ 本日の有識者検討部会につきましては、国の津波シミュレーションによる浸水予想の発表目途がつかないということで、北海道の津波シミュレーションのレベ

ル2を想定して検討を進めていきます。

(総合政策部長)

- 本日の有識者検討部会は、北海道の想定を基に開催し、スケジュールにつきましては今回の検討を踏まえて考えていきたい。

(質問)

- 国の津波予想の発表については、来年度になりますか。

(市長)

- まだ、はっきりとしておりません。

(質問)

- 今年度はどのぐらいまで検討していきたいなどの考えはありますか。

(市長)

- 東日本大震災の発生を受け、命を救うための取り組みを進めていかなければならない状況であり、市ではまず避難所を確保しました。

車での避難移動についても検討を進めていかなければならないと思っております。

今回の検討部会は、国の津波浸水予想についてまだ発表されておられませんので、北海道から発表されている内容で作業を進めたいと考えております。

市民の皆さんや観光客の方を含め、地域の安全に向けしっかりと取り組んでいかなければならないと考えております。

(質問)

- 市長選挙のことでお伺いします。今のところ、立候補者が蝦名市長以外に出ていない現状をどう捉えるかということと、併せて、共産党系の市民団体の方で擁立したいと模索しているようなのですが、仮に選挙戦になった場合に、どのように戦っていききたいと考えているのでしょうか。

(市長)

- 現状、立候補者は私だけとなっております。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定や、観光振興に向けた「観光立国ショーケース」「国立公園満喫プロジェクト」といった様々な選定を受け、これらを活用しながらKPIを指標に取り組みを行っていることに対し、一定の理解はいただいているものと考えております。

自分自身も、これらをしっかりと成し遂げたいと考え、立候補することにしております。

私は、党として擁立しなければいけないというのは、どのようなものかと思っております。

議員内閣制である国会の場合は、党としてどのようにする、何をするということはありますが、地方自治ではそれは僅かであると思っております。

街をどのようにしたいという思いがあり、何を進めていくかが地方自治体の重要な要素だと考えており、特に首長選についてはそのように思います。

(質問)

- 実際に立候補者が出てきたら、政党よりも、どのように街づくりをしていきたいかということ、政策として主張しあって選挙戦を迎えるということでしょう

か。

(市長)

- ・ 私はそう思っています。

(質問)

- ・ JR北海道が路線の見直しに動き出し、関係自治体とも協議をしていくということですが、釧網線、根室線がある釧路市としては、今後どのような対応をされていくのでしょうか。

(市長)

- ・ 7月29日にJR北海道から「持続可能な交通体系のあり方」についての発表がありましたが、線区ごとに協議会等の相談の場を設け、地域の皆さんに対して諮っていくということで、一つ一つの路線について地域の関係自治体と協議会を設けていくというやり方は、疑問に思います。

北海道におけるJR北海道の鉄道の役割を、どのように見るのかということであり、それぞれの自治体のための交通機関ということではありません。北海道全体でこのJR北海道のネットワークが大量輸送機関として、また、地域の足として存在している中、北海道全体としてどのような形で進めていくのかという議論が全くない中で、突然、個別の協議というものは、いかななものなのかと思っております。

北海道の中でも生活区域は6つに分かれており、それぞれ拠点都市がある中で、北海道の持つポテンシャルを生かすために、JR北海道の役割があると思います。その中で、現実的な収支の問題も含め、どのようにしていくのかということになります。

JR北海道では北海道に対して、昨日説明に行ったということであり、これからの議論になると思っております。

(質問)

- ・ 北海道全体の協議の場が必要ということですか。

(市長)

- ・ 北海道として、どのようにするかということです。

国鉄の分割民営化の際には、地域に密着する鉄道という目的が大きく入っていました。地域活性化についても、分割民営化の際の議論に含まれていると考えていますので、その点が今回は完全に抜け落ちているという思いがしております。

北海道の中で札幌と東京を繋げばいいということではないと思ひ、違和感を持って受け止めたということでもあります。

(質問)

- ・ 現実にJR北海道の経営を考えると、一定の地元負担等は考えられますか。

(市長)

- ・ これに関しては、大きな課題だと思っております。分割民営化されていく際に、国の中でどのような形で進めていたのかということであり、国土形成計画とイコノミカルな話だと思っております。

土台が違うところで民営化により分割され、競争力も全然違う中で、後は自由

にどうぞということになれば、J R北海道にとっては鉄道以外の収益を追求していくのもある意味仕方ない部分もあったのですが、経営の面でいけば、今後、そのような議論は出てくるものと思います。

分割民営化から30年弱になりますが、はじめの議論を踏まえた進め方であるのかをもう一度しっかりと見ながら、進めていくべきだと思っております。

(質問)

- ある程度、国策としてのテコ入れのようなものが必要だとお考えですか。

(市長)

- 基本的には様々な社会資本整備、インフラは、北海道を生かすものであり、国益にかなうことだと思っております。

バルク港湾や、道路、空港の整備についても、国にはそのようにお話をさせていただいているところであります。まさに社会インフラは、人口減少社会を踏まえて、日本の国益をどのように確保していくのかということで、そのためにも北海道を生かすべきだということです。

また、北海道の食料基地としての役割も踏まえて、一定のインフラは公共性があることであり、広く全体が負担すること、つまりは、国が対応していくことが、私は必要だと思っております。

例えば通信のW i - F i や、通信速度が速くなるネット回線や高速道路等は全部、都会から整備されておりますが、海外に行くとも地方から整備されております。地方を生かすためには、そのような社会インフラというものは、地方側から整備していくべきだと思っておりますが、日本では逆です。

北海道は食や自然など生かされる土台がありますので、鉄道については、そういったものを生かすインフラと思っております。

(質問)

- HAC (北海道エアシステム) について、釧路市も出資をしていたことがあり、函館便を復活して欲しいという話をよく聞きます。とりわけ、今、函館に新幹線が入ってきて、本州に渡る際には便利になっている中、釧路からJ Rを利用して本州に渡るためには1日がかかりとなります。これらのことから、函館便の復活についてはどのようになっているのでしょうか。

(市長)

- 北海道への要請の中にしっかりと入れております。HACには、以前、約1,700万円を出資し、JALに移行した時に引き上げましたが、函館-釧路については復活させていくことが北海道の書面に明記されているところです。

函館市はHACの株を持っていたと思っておりますが、当市は北海道との約束で函館便が明記されているために出資の必要はないということで、引き上げたところです。

新幹線の開業を踏まえ、昨年も、また、先日も函館便について要請をしているところでありますが、動きはなかなか出てきていないのが実態です。

以前から新幹線の開通効果を広く全道に波及させていくということが言われており、北海道としても、その責任において進めていただきたいと、先日も要請し

てまいりました。

(質問)

- ・ 道東地区には東北から来ている開拓者が多くいることもあり、以前あった仙台－釧路間の便について、要望や誘致等、釧路市としてどのような取り組みの考えがありますか。

(市長)

- ・ そのような路線の復活といった話は、現在はありません。  
現在は、季節運航している伊丹線、中部線について、運航期間の延長を関係機関と連携しながら、要請活動を行っているところであります。  
また、LCCなどの各航空会社へ訪問し、就航の可能性についての情報収集を含めた、営業活動を行っているところです。  
釧路市には、地域に点在する有望な資源をはじめ、「観光立国ショーケース」を活用した施設整備や観光素材の磨き上げなど、観光客受け入れに係る体制を整備し、就航に向けた提案として、誘致活動を進めてまいりたいと思っております。  
新たな路線の確保も視野に、空港の民間委託化等を推進していきながら、可能性を模索していければと考えております。

(質問)

- ・ 相模原市の障害者施設で事件がありました。市内にも同様の施設があると思いますが、市としてセキュリティなどの対策について何か考えていますか。

(市長)

- ・ このたびの事件につきましては、あまりにも異常で考えられない出来事でしたから、どのような対応があるかということについては、難しいところです。

(質問)

- ・ 元職員ですしね。

(市長)

- ・ 全てにおいて職員がやっていることと全く逆で、心のバリアフリーや、お互いに認め合うこと、社会的包摂などとは真逆の思想です。  
一人このような人物がいたということは、まだ他にもいるかもしれないという恐ろしさは感じます。

(市民協働推進課長)

- ・ 福祉部に確認し、どのような対応をしているかについては、書面でお知らせしたいと思います。